

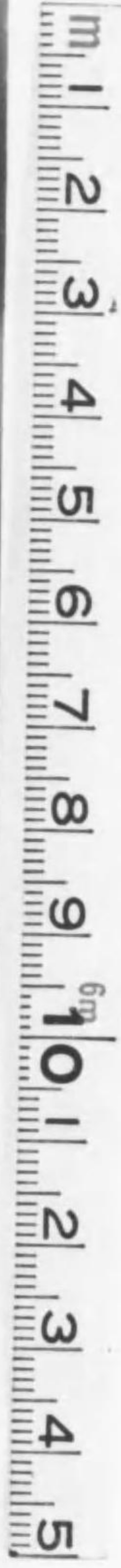
特279-14



1200601101912

20

考古圖集



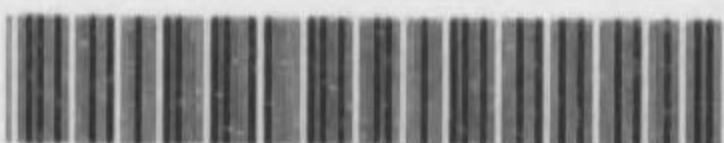
始





I 種

W



1200601101912

考古圖集解説 第二十九集

越後號

281) 青磁香爐(山中樵氏寄贈寫真)

越後國西蒲原郡國幣中社彌彦神社藏。高さ五寸、口径六寸六分。寛元年中守僧隆蘭溪將來して將軍に獻せしもの、後に徳川家康より高田城主松平忠輝拜領して彌彦神社に奉納せしものミ傳來せり。

282) 鐵鉢(山中樵氏寄贈寫真)

彌彦神社藏。高さ一尺一寸三分、口径一尺九寸五分、底外徑一尺三寸四分。鑄出銘あり。

彌彦御鉢

嘉曆元年丙

九月五日

奥山庄中條住人

相次郎孝基敬

白

283) 金銅燈籠(山中樵氏所贈寫真)

同じく彌彦神社藏にして、在銘、一對なり。高さ寶珠の頂まで一尺七寸四分、火袋の徑八寸五分。銘文は火袋の柱

(67)

第二十九集 解説

部にあり。

奏寄進越後國蒲原郡彌彦明神

慶長十五年庚戌六月吉日

大久保石見守長安

284) 金銅幡(山中樵氏所贈寫真)

越後國北蒲原郡乙村乙寶寺藏。主部長さ一尺五寸二分、幅五寸六分。表に「乙寶寺」裏に「大永三年癸未六月三日」ミ在銘。

285) 金銅華鬘(山中樵氏所贈寫真)

同じく乙寶寺の什寶なり。主部は高さ七寸五分、幅八寸七分。向つて右のものには、(表)「大永三年甲申五月乙寺」(裏)「平朝臣盛實」向つて第二のものには、(表)「大永六年丙六月乙寺」第三のものに、(裏)「乙遍照院常住天文七年戊戌九月五日」ミ在銘。

286) 經筒(山中樵氏所贈寫真)

本圖版以下(289)版までは、越後國西蒲原郡峯岡村竹野町金仙寺裏山に存する葛蒲塚ミ稱する古墳の後圓部頂上に築か

(68) 第二十九集 解説

れたる経塚より発見せしものなり。本経塚は文化の末年より文政の初年の間の頃、盗人によつて發掘せられしものを押へしもの、爾來金仙寺に保存せらる。経筒は高七寸五分・徑四寸七分・蓋深五分。銅製。刻銘あり。
賀應二年庚子三月十一日
如法經供養

藤原正宗
縁文章加部代

(287) 経筒容器(山中樵氏所贈寫眞)

二口共に陶製なり。向つて右は高さ一尺二寸三分・口径六寸・胴部徑一尺四分・底徑四寸四分。向つて左は高さ一尺二寸・口径五寸五分・胴部徑一尺・底徑三寸四分、頸部に「大」の刻印あり。

(288) 白磁製合子(山中樵氏所贈寫眞)

白磁製合子は経塚より往々発見せらる。向つて右の合子身は、高一寸五分・口径一寸二分・胴徑二寸六分・左は高さ一寸二分・口径二寸、蓋の表面に蝶唐草の浮文あり。

(289) 鏡(山中樵氏所贈寫眞)

向つて右は山吹飛雀鏡、左は草花蝶鳥鏡。前者は徑三寸七分二厘・質青銅、一般の手法稍々厚作、構圖は古式を遺ひ三區に分ちて文様を配せり。内取高く、鑄成頗る精緻、實用の佳品なるべし。草花蝶鳥鏡は内區の適當なる所より切り取つて、経筒の底に應用せしものなり。完形ならば徑三寸五六分もあらんか。構圖は唐式を追うて交互相對描寫を採り、手法精良なるものあり。

(290) 鏡(山中樵氏所贈寫眞)

向つて右は菊蝶鳥鏡、左は秋草蝶鳥鏡。前者は徑三寸三分四厘、質青銅、一莖の菊を中央下部より描き出して鈕を貫き、上方に於て較れて雙方に枝垂れし態、頗る優麗の趣あり。その表現、太き筥にて力強く彫り、鳥と花姿に豊かなる内取をなし、鑄成佳。秋草蝶鳥鏡は徑三寸一分、質青銅、構圖は繪畫的二段描寫にして殆ど陰影のみなり。なほ本経塚発見の鏡に松鶴鏡あり。文様また精美、以上五面、共に精巧なる實用品にして、普通経塚発見のもの之趣を異にせるを注意すべし。

(68) 第二十九集 解説

れたる経塚より発見せしものなり。本経塚は文化の末年より文政の初年の間の頃、盗人によつて發掘せられしものを押へしもの、爾來金仙寺に保存せらる。経筒は高七寸五分・徑四寸七分・蓋深五分。銅製。刻銘あり。賀應二年庚子三月十一日 如法經供養

藤原正宗
縁文章加部代

(287) 經筒容器(山中樵氏所贈寫眞)

二口共に陶製なり。向つて右は高さ一尺二寸三分・口径六寸・胴部徑一尺四分・底徑四寸四分。向つて左は高さ一尺二寸・口径五寸五分・胴部徑一尺・底徑三寸四分、頸部に「大」の刻印あり。

288 白磁製合子(山中樵氏所贈寫眞)

白磁製合子は経塚より往々発見せらる。向つて右の合子身は、高一寸五分・口径一寸二分・胴徑二寸六分・左は高さ一寸二分・徑二寸、蓋の表面に螺唐草の浮文あり。

(289) 鏡(山中樵氏所贈寫眞)

向つて右は山吹飛雀鏡、左は草花蝶鳥鏡。前者は徑三寸七分二厘・質青銅、一般の手法稍々厚作、構圖は古式を追ひ三區に分ちて文様を配せり。肉取高く、鑄成頗る精緻、實用の佳品なるべし。草花蝶鳥鏡は内區の適當なる所より切り取つて、経筒の底に應用せしものなり。完形ならば徑三寸五六分もあらんか。構圖は唐式を追うて交互相對描寫を採り、手法精良なるものあり。

(290) 鏡(山中樵氏所贈寫眞)

向つて右は菊蝶鳥鏡、左は秋草蝶鳥鏡。前者は徑三寸三分四厘、質青銅、一莖の菊を中央下部より描き出して鈕を貫き、上方に於て岐れて雙方に枝垂れし態、頗る優婉の趣あり。その表現、太き筥にて力強く彫り、鳥と花菱に豊かなる肉取をなし、鑄成佳。秋草蝶鳥鏡は徑三寸一分、質青銅、構圖は繪畫的二段描寫にして殆ど筥影のみなり。なほ本経塚発見の鏡に松鶴鏡あり。文様また精美。以上五面、共に精巧なる實用品にして、普通経塚発見のものご趣を異にせるを注意すべし。

青磁香爐
(藏社神奈川)

281



第二十九集(越後號)



1200601101912

鉢 鐵

232

(藏社神彦彌)



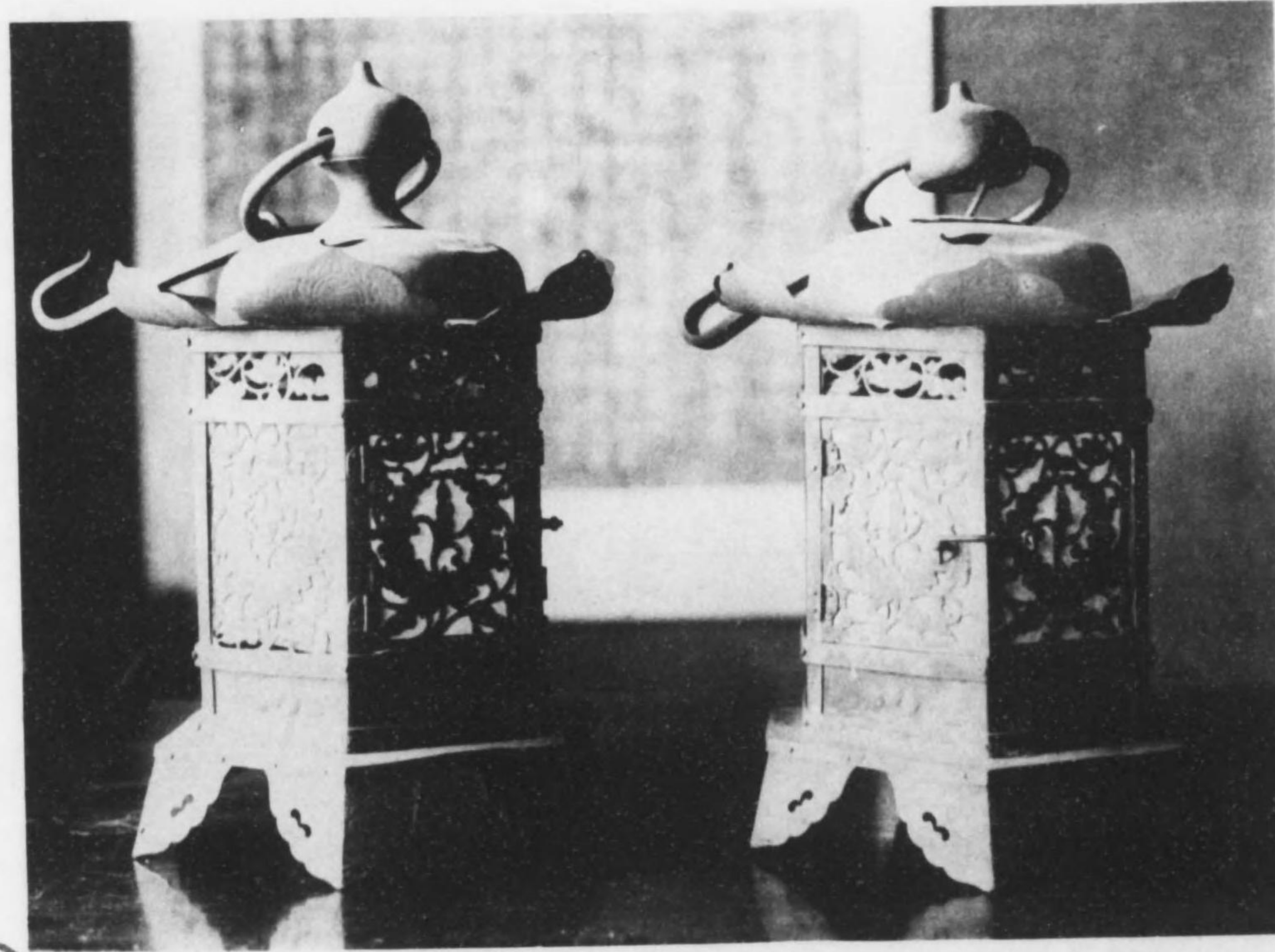
第二十九集(越後號)



1200601101912

籠燈銅金
(藏社神京彌)

283

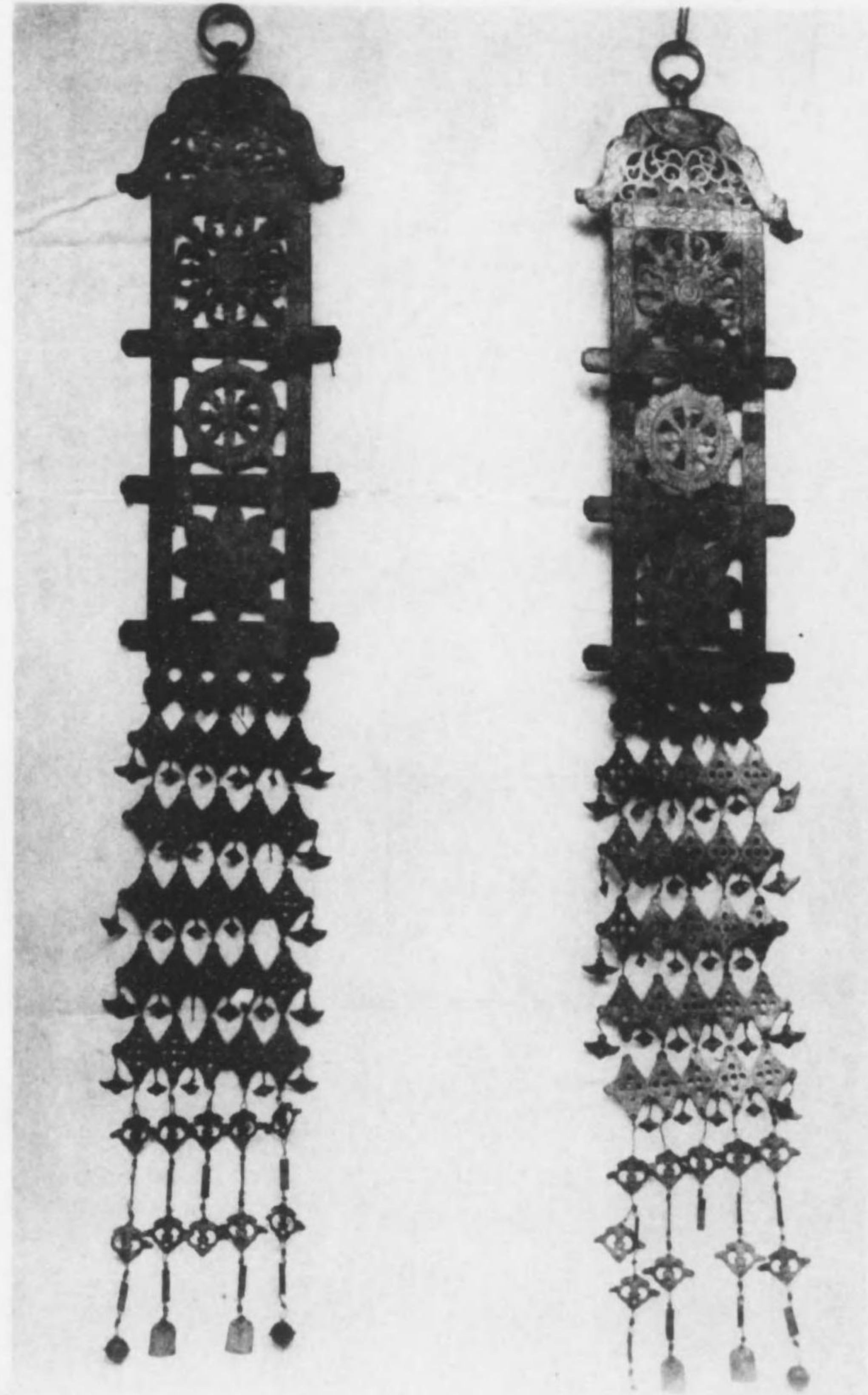


1200601101912

第二十九集(越後號)

金 銅 鑄
(藏寺寶乙)

284

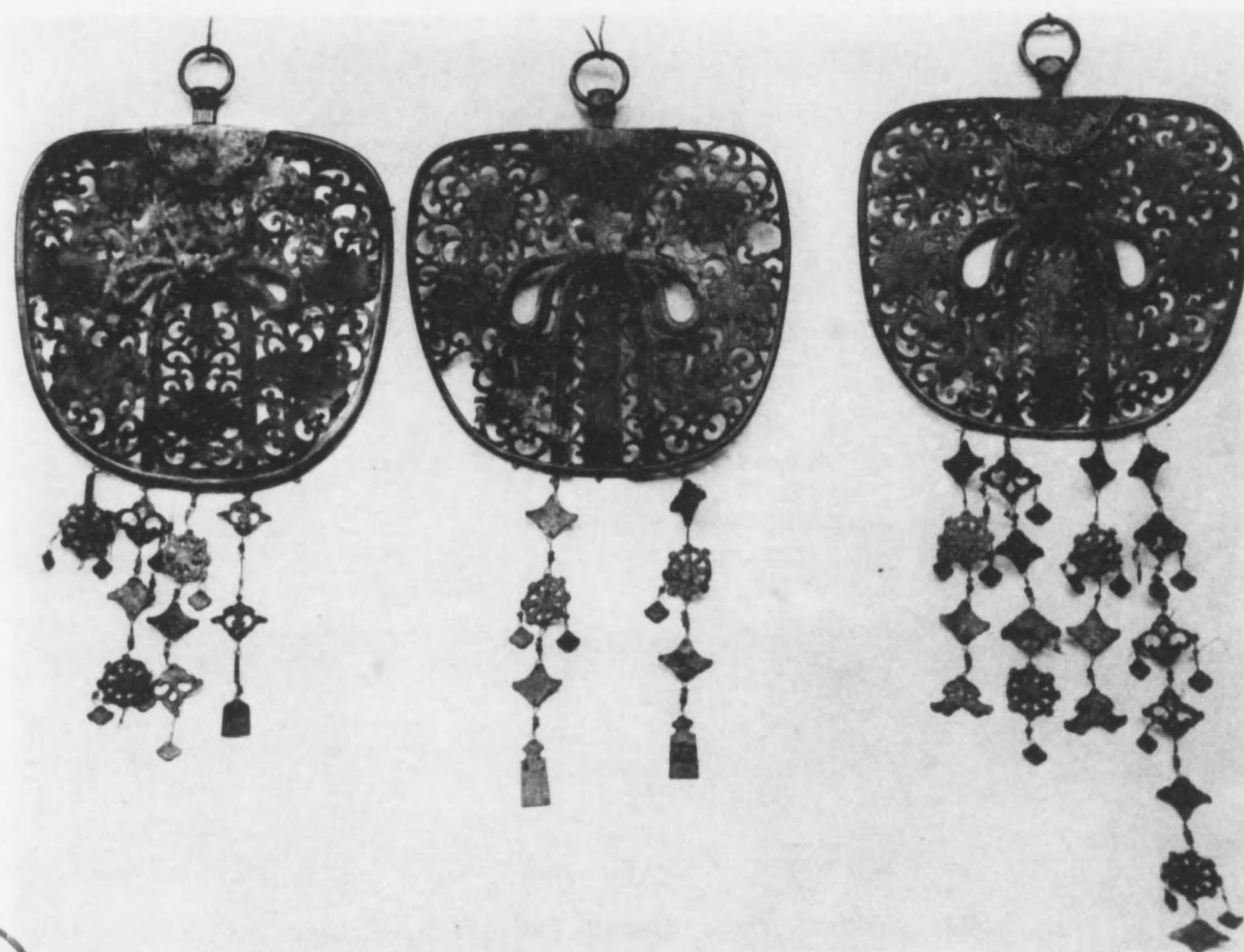


1200601101912

第二十九集(越後號)

金銅華鬘
(藏寺寶乙)

285

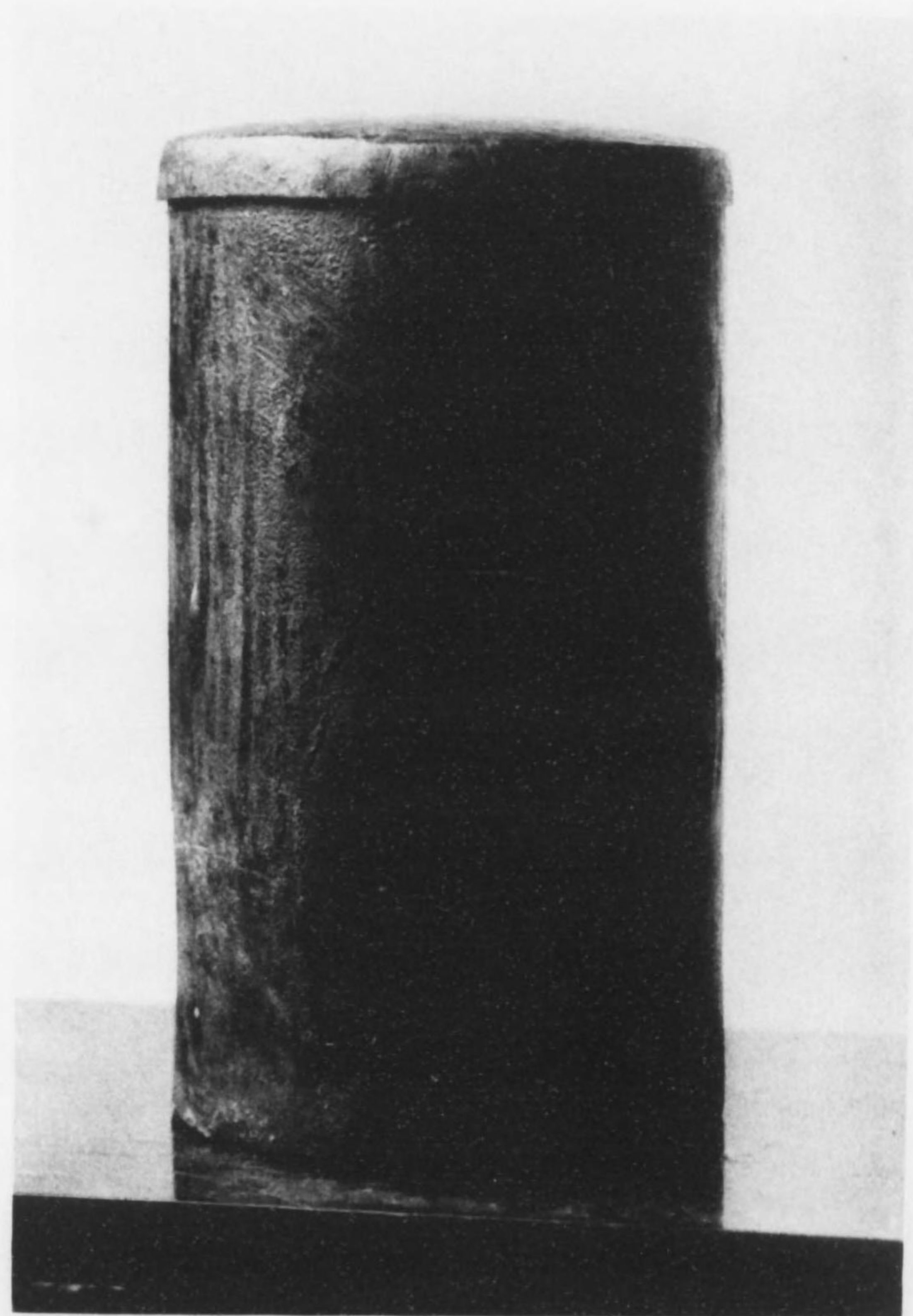


1200601101912

第十九集(越後號)

筒 經
(藏寺仙金)

286



第二十九集(越後號)



1200601101912

器 容 筒 經
(新 字 曲 金)

287



第二十九集(越後號)



1200601101912

白磁製合子
(藏寺仙金)

235



1200601101912

第二十九集(越後號)

鏡
(寶寺仙金)

289



1200601101912

第二十九集(越後號)

鏡
(金仙寺)

290



1200601101912

第二十九集(越後號)

大正十二年五月十二日印刷
大正十二年五月十五日發行

不許
複製

總編輯
看能

代表者

印刷者

印刷所

發賣所

東京市下谷區上根原町八十八番地
考古學會

東京市下谷區上根原町八十八番地
高橋健白

東京市神田區區會館前六番地
大塚

東京市神田區區會館前六番地
大塚

東京市本郷區區會館前三十四番地
聚精堂

終

